

2. 男女の別（女性 100 に対する男性の数）

表 11 で熊本市の性比をみると、大正 9 年の 108.7 を最高にその後次第に低下しており、平成 17 年では、89.4 まで低下している。

大正 14 年までは男が多かったものが、昭和 5 年に性比が逆転し、昭和 15 年には、92.0 と急激に低下しており、これは兵士としての動員が影響していると考えられる。

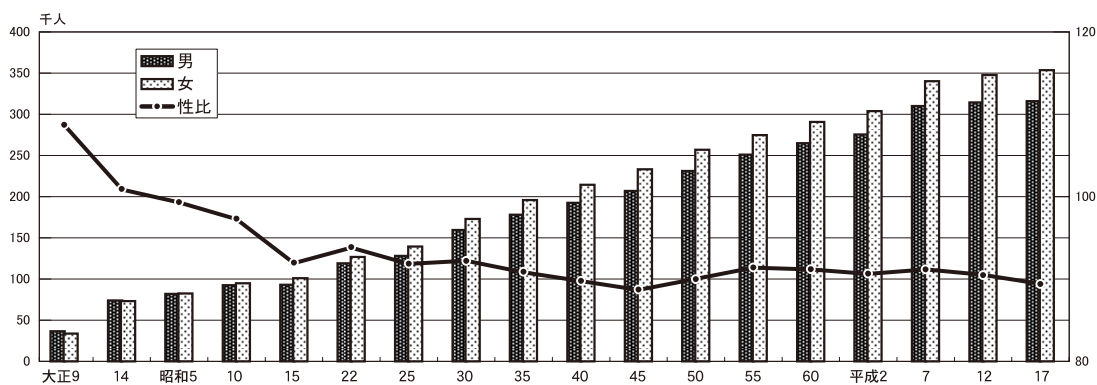
昭和 22 年には海外からの復員、引き揚げなどにより、93.9 まで上昇したが、そののちは昭和 45 年の 88.7 まで漸減が続いた。昭和 50 年、55 年は上昇に転じたが、その後はおおむね減少傾向を示しており、全国の数字を見ても同様の傾向を示している。これは女性の平均寿命の伸びが関係していると考えられる。

表 11 男女別人口の推移（当時人口）

（単位：人）

年 次	熊 本 市			熊本市 女 100人につき	熊本県 女 100人につき	全国 女 100人につき
	総 数	男	女			
大 正 9 年	70,388	36,661	33,727	108.7	95.5	100.5
14 年	147,174	73,923	73,251	100.9	96.9	101.1
昭 和 5 年	164,460	81,957	82,503	99.3	96.3	101.1
10 年	187,382	92,418	94,964	97.3	96.3	100.7
15 年	194,139	93,013	101,126	92.0	95.1	100.1
22 年	245,841	119,024	126,817	93.9	—	—
25 年	267,506	128,067	139,439	91.8	93.4	96.3
30 年	332,493	159,500	172,993	92.2	93.7	96.5
35 年	373,922	178,014	195,908	90.9	91.5	96.5
40 年	407,052	192,538	214,514	89.8	90.0	96.4
45 年	440,020	206,854	233,166	88.7	88.5	96.6
50 年	488,166	231,188	256,978	90.0	89.5	97.0
55 年	525,662	251,011	274,651	91.4	90.6	96.9
60 年	555,719	265,037	290,682	91.2	90.5	96.7
平 成 2 年	579,306	275,424	303,882	90.6	89.6	96.5
7 年	650,341	310,118	340,223	91.2	89.8	96.2
12 年	662,012	314,455	347,557	90.5	89.6	95.8
17 年	669,603	316,048	353,555	89.4	88.9	95.3

図 12 男女別人口及び性比の推移（性比：女＝100）



3. 年齢別人口

(1) 年齢構成の推移

ますます進む人口の高齢化

平成 17 年の人口を年齢（3 区分）別にみると、0～14 歳の年少人口が 99.9 千人、15～64 歳の生産年齢が 444.8 千人、65 歳以上の老年人口が 123.9 千人で、全人口に占める割合はそれぞれ、14.9%、66.4%、18.5%となっている。

平成 12 年の年齢 3 区分構成と比較すると、年少人口が△0.9 ポイント、生産年齢人口は、△1.5 ポイントと低くなった反面、老年人口は 2.2 ポイント高くなった。